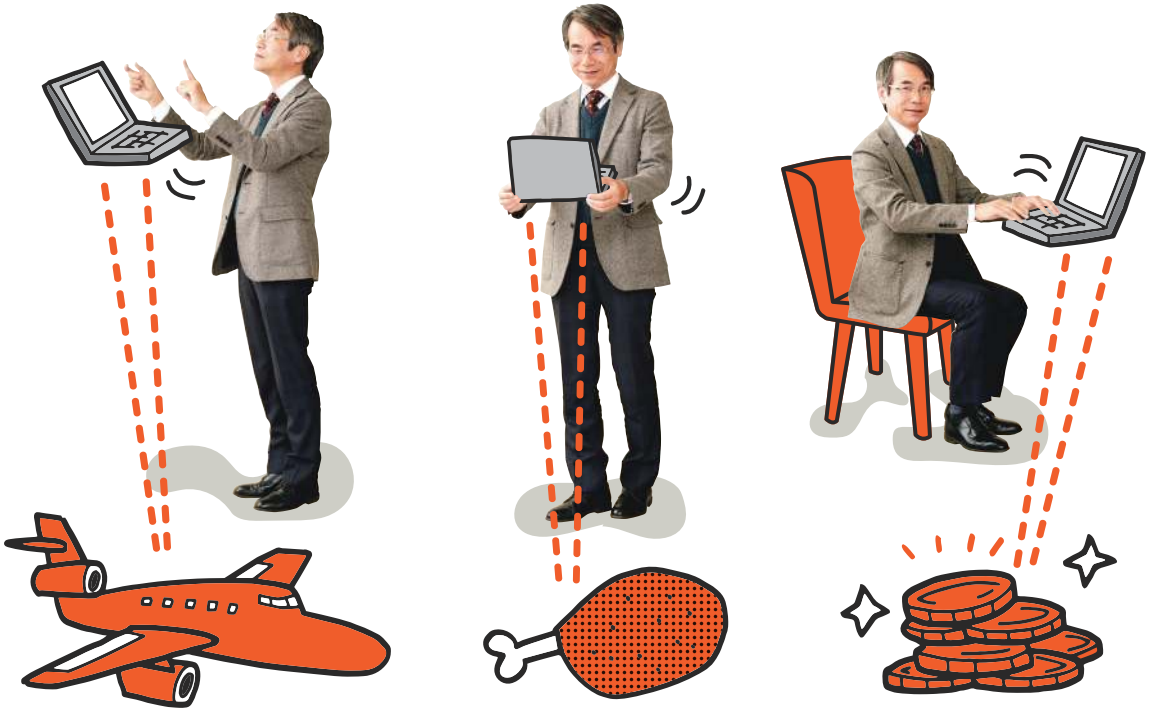
MEIJO Q&A 22

経営学部 経営学科

Q. 経営にセンスは必要ない？

感覚的なアプローチだけでなく、さまざまなデータを利用することで、効率的な経営が実践できます。



感覚や理論も大切にしながら、データをベースにした経営学を展開。

経営数学や経営科学と呼ばれる数理的なアプローチを行う経営学があるのをご存知ですか。例えば金融データなら過去の数値の変化を観察して、株価や為替の変動を分析したり、国と国との経済的な関係性がどう変化していくかを予測したりします。こちらはどちらかというと経済学に近い分野で、ファイナンスと呼ばれるものです。そして、もうひとつがマーケティング。消費者がどういう心理でモノを購入するか、消費者の好みや利用方法、購入金額、時間・場所などあらゆる情報から判断して、どういう商品を提供すればいいかを見つけていきます。インターネットやスマートフォンの普及で、こうしたデータが大量に入手できるようになった今、これらのビッグデータの中には経営に関するヒントが無尽蔵に隠されているかもしれません。

20世紀はエネルギー革命、21世紀は情報革命と言われている。

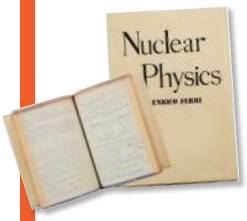
科学とは仮説を立て、自分の知りうる事実や知識をベースに物事の検証を行っていきます。しかし、このやり方では、自分の知らない部分はいつまでも見えないままですが、膨大なデータをベースにすれば、知りうる範囲は途方もなく広がっていきます。それがデータサイエンスです。20 世紀はエネルギー革命、21 世紀は情報革命と言われていますが、中でもデータサイエンスはもっとも注目される分野。自動運転や会話ロボットなどの AI 技術の中核になっているのもデータであり、因果関係だけでは知る由もなかった未知の資源もデータの中に隠されているかもしれません。それらを導き出し、経営の意思決定のヒントとすれば、より効率的な経営が実践できます。

鳥居 弘志 先生

PROFILE

小学生の頃から科学に興味があり、いつも理科の図鑑を読んでいたという鳥居先生。過去に研究されていた航空関係のデータ分析の成果は、アメリカの学術雑誌にも掲載されたほどですが、さまざまな分野に興味を持ち、チャレンジしていくことを心情としていたことから、今の道へ進まれたそうです。

学生時代のマイブーム



初心を貫いたから今がある。

昔から科学者になりたくて、高校時代は理論物理と生化学に興味を持っていました。でも実際はいくら読んでもわからない。だから、また読み返したくなるという不思議な連鎖の中で勉強していましたね。大学時代は科学者になるという初心を忘れず、手製のテキストもつくって集中的に勉強しました。写真はその学生時代のテキスト。